

物質循環PJ

研究代表者（所属）：北宅 善昭（大阪公大・研究推進機構）

# 人工光型植物工場へのプロバイオポニックス栽培の導入に向けた 課題の検討

○林 伯諺<sup>1</sup>，河合 真帆<sup>1</sup>，中村 謙治<sup>1</sup>，北宅 善昭<sup>2</sup>，○江口 雅文<sup>2</sup>

所属： 1 エスペックミック株式会社， 2 大阪公大・研究推進機構

キーワード：有機質肥料，かつお煮汁，減化学肥料，水耕栽培，レタス

## 要 旨

環境問題に対する意識の高まりや昨今の肥料供給の不安定化により、食品残渣や動物の排泄物、あるいは食品加工時の副産物といった動植物由来の有機物を原料とする有機質肥料に注目が集まっている。有機質肥料の利用には、土壌微生物の作用が不可欠であるが、培養液中では一部の微生物が不活性化するため、有機質肥料を養液栽培において用いることは困難とされてきた。しかし、近年、この問題を克服する栽培方法が確立され、プロバイオポニックス栽培と命名されている。本研究では、商用規模の人工光型植物工場においてプロバイオポニックス栽培を行うための課題の抽出を目的とし、経節製造時の副産物である煮汁を用いて栽培試験を行った。本発表では、昨年度の試験結果を中心に報告する。